

### Ⅲ. 結果の概要（市民調査）

## 1 男女の平等感【問6】

- 社会全体の男女の平等感について、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』は女性で75.5%、男性で58.4%である。前回調査（令和2年度）の結果と比べると『男性優遇』の男女間の認識の差が増大している。
- 各領域の中で、男女とも「平等」が『男性優遇』を上回っているのは、教育のみである。男女とも4～5割が「平等」であると答えており、『男性優遇』は男女とも1割程度となっている。
- 「政治の場」および「社会通念・慣習・しきたり」では、『男性優遇』が高く、女性7割、男性5～6割台となっている。
- すべての領域で、男性の「平等」の割合が女性より高くなっている。認識の差が10ポイントを超えているのは、家庭生活、法律や制度、社会通念・慣習・しきたり、職場である。

## 2 日常生活や社会全般についての考え方【問7】

- 前回調査の結果と比べ、全体的に男女の固定的な性別役割を肯定する考えより固定的な考え方にとられない考え方に変化してきている。
- 「妻や子どもを養うのは、男性の責任である」はほぼすべての年代で、男性の『肯定派』の割合が女性を20ポイント以上上回っており、男性でより固定的な性別役割分担意識がうかがえる。
- 結婚について、「結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい」はすべての年代で『肯定派』が多く、「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」も60歳代以下で『肯定派』が多くなっている。「結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だ」は前回調査と比較して男女ともに『否定派』の割合が高くなっている。
- 子どもを育てることについて、「自分の子どもには、男女にかかわらず同程度の教育や学歴を身につけさせたい」は男女とも『肯定派』が8割台であり、教育においては男女平等の意識が共通していることがうかがえる。一方子育ての過程について、「子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がいい」は男女とも40歳代以上の年代で『肯定派』が最も多くなっており、3歳までの子育てについて固定的な役割意識が強いことがうかがえる。ただし、男女とも30歳代では意見が分散傾向にあることがうかがえる。
- 「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がいい」については、女性では、60歳代以下のすべての年代で『否定派』の割合が高くなっているが、男性では40歳代以上の年代で『肯定派』の割合が高く、男女間の意見に相違が見られる。

## 3 家庭生活について

### （1）性別役割分担意識【問8】

- 「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、女性は『反対派』が56.2%と『賛成派』を30ポイント以上上回るが、男性は『賛成派』と『反対派』との差が0.4ポイントと意見が分散している。前回調査と比べて大きな変化はみられない。

### （2）性別役割分担意識について賛成の理由【問8-1】

- 女性では「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」（63.2%）、男性では「子どもの成長にとってよいと思うから」（54.3%）が最も高くなっている。
- 前回調査の結果に比べ、「子どもの成長にとってよいと思うから」は、女性で13.7ポイント低下しているのに対し、男性では7.6ポイント上昇している。

### (3) 性別役割分担意識について反対の理由【問8-2】

- 男女とも「男女がともに仕事と家庭に関わる方が、各個人や家庭にとってよいと思うから」が最も高く、次いで「仕事に適した女性や、家事・育児に適した男性もいるから」となっている。いずれの項目も女性の方が10ポイント以上高くなっている。
- 前回調査の結果に比べ、女性では大きな変化はみられないが、男性では「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとっていいと思うから」「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから」が5ポイント以上上昇している。

### (4) 家庭での分担

#### ①理想【問9】

- 「生活費を得る」以外のすべての項目で男女ともに「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が最も高くなっている。
- 「生活費を得る」では、女性では「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高いが、男性では「主に夫・パートナー」が最も高くなっている。40歳代以下の男性は「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高くなっている。
- 「家計の管理」「日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）」「育児」では、女性ではすべての年代で、男性では60歳代以下で「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高くなっており、男性70歳以上では「主に妻・パートナー」が最も高くなっている。
- 「高齢者、病人の介護・看護」「自治会、町内会など地域活動への参加」では、男女とも、すべての年代で「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高くなっている。
- 前回調査の結果に比べ、女性では「高齢者、病人の介護・看護」以外のすべての項目で「夫婦・カップルで同じくらい」が5ポイント以上上昇している。男性では「日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）」「高齢者、病人の介護・看護」で「夫婦・カップルで同じくらい」が5ポイント以上上昇している。

#### ②現実【問9】

- 「生活費を得る」では、男女とも「主に夫・パートナー」が最も高くなっている。
- 「家計の管理」「日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）」「育児」では、男女とも「主に妻・パートナー」が最も高くなっている。
- 「高齢者、病人の介護・看護」では、女性は「主に妻・パートナー」が最も高いが、男性は「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高く、認識に差がみられる。
- 「自治会、町内会など地域活動への参加」は、女性は「主に妻・パートナー」が63.8%で最も高いが、男性は「夫婦・カップルで同じくらい」「主に夫・パートナー」「主に妻・パートナー」がそれぞれ3割程と意見が分散している。
- 前回調査の結果に比べ、男女ともに「生活費を得る」では「夫婦・カップルで同じくらい」、「育児」「自治会、町内会など地域活動への参加」では「主に妻・パートナー」の割合が上昇している。
- 理想と現実を比較すると、男女ともに家庭生活で同等の役割分担を理想としながら、現実的にはどちらかのパートナー、夫あるいは妻に役割が偏っていることがうかがえる。

## 4 地域活動について

### (1) 地域活動の参加状況【問 10】

#### ①現在参加している活動

- 現在参加している活動は、男女とも「自治会・町内会の活動」が最も高く、次いで「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」となっている。
- 「特にない」が男女ともに6割を占めている。年代別にみると30歳代以下の女性や50歳代以下の男性で地域活動に参加していない割合が高めである。

#### ②今後参加したい活動

- 今後(または引き続き)参加したい活動は、男女とも「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」が最も高く、次いで、女性は「自治会・町内会の活動」、男性は「清掃・美化や環境保全のための活動」が続いている。
- 全体では「特にない」が男女ともに5割台を占めている。29歳以下の男女や50～60歳代の男性では参加したい地域活動がない割合が高めとなっている。

### (2) 地域活動に参加したくない理由【問 10-1】

- 男女ともに「仕事が忙しいから」が最も高く、女性では「参加するきっかけがないから」、男性では「あまり関心がないから」が続いている。
- 男女ともに若年層で「参加するきっかけがないから」、30～50歳代で「仕事が忙しいから」の割合が高めとなっている。
- 前回調査の結果に比べ、男女ともに「人間関係がわずらわしいから」が5ポイント以上上昇している。

## 5 男性の家事・子育て・介護・地域活動の参加について

### (1) 男性が家事・子育て・介護・地域活動に参加していくために必要なこと【問 11】

- 男女とも「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が最も高くなっており、次いで「職場の上司や同僚が、男性の家事・子育て・介護・地域活動に理解を示す」となっている。
- ほぼすべての項目で女性の割合が男性より高くなっているが、「職場の上司や同僚が、男性の家事・子育て・介護・地域活動に理解を示す」「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重する」では10ポイント以上高くなっている。

## 6 仕事について

### (1) 女性の働き方について【問 12】

- 男女とも「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」が女性 42.0%、男性 35.6%で最も高い。女性では、「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」、男性では、「育児の時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい」が続いている。
- 前回調査の結果に比べ、「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」が男女ともに5ポイント以上上昇している。

### (2) 仕事における平等感【問 13】

- 「昇給や賃金水準」「昇進・昇格・管理職への登用」以外のすべての項目で男女ともに「平等」の割合が最も高い。「昇給や賃金水準」では女性の『男性優遇』と「平等」が同率となっている。
- 男女ともに、「出産・育児・介護休暇のとりやすさ」以外のすべての項目で『男性優遇』の割合が『女性優遇』より高くなっている。
- 女性では、「研修の機会・内容」「昇給や賃金水準」「能力評価（業績評価・人事考課など）」における『男性優遇』の割合が男性に比べて10ポイント以上高い。
- 雇用形態別では、女性の正規/非正規雇用と男性の正規雇用で「昇進・昇格・管理職への登用」における『男性優遇』が最も高くなっている。
- 前回調査の結果に比べ、「平等」の割合は女性では5ポイント以上上昇した項目はみられない。男性では「研修の機会・内容」で8.4ポイント上昇している。

### (3) 仕事や家事・育児・介護に要する時間【問 16】

#### ①仕事

- 平日は、男女ともに「なし」が最も高く、女性で45.9%、男性で35.6%。次いで、「8時間～10時間未満」で女性18.3%、男性20.8%が続いている。この結果は今回調査の回答者の年齢分布を反映していると思われる。
- 休日も、男女ともに「なし」が最も高く、女性で78.0%、男性で66.3%。男性より女性の方が11.7ポイント高い。次いで、男女とも「4時間未満」で女性8.1%、男性16.7%である。
- 前回調査の結果に比べ、男女ともに平日・休日の仕事の時間に大きな変化はみられない。
- 雇用形態別では、平日は男女とも正規雇用で「8時間～10時間未満」が最も高いが、女性で51.9%、男性で36.0%と男女差がみられ、男性では「10時間～12時間未満」「12時間以上」など長時間の割合が女性に比べて高くなっている。
- 休日は正規雇用で、男女ともに「なし」が最も高いが、その割合は男性の方が低く、男性は「4時間未満」の割合が女性に比べて高くなっている。非正規雇用では、男女ともに「なし」が6割台である。

#### ②家事・育児・介護など

- 平日は、女性では「1時間～2時間未満」が19.3%で最も高く、「3時間～4時間未満」「5時間以上」が続いている。男性では「ほとんどない」が28.0%で最も高く、「1時間～2時間未満」「30分～1時間未満」が続いている。
- 休日は、女性では「5時間以上」が19.5%で最も高く、「1時間～2時間未満」「3時間～4時間未満」が続いており、順位は異なるが平日と大きな差はみられない。男性では「ほとんどない」が

23.5%で最も高く、次いで「1時間～2時間未満」「30分～1時間未満」である。平日と比べて「5時間以上」が5ポイント以上上昇している。

- 雇用形態別では、平日は、女性の正規雇用では「1時間～2時間未満」、非正規雇用では「3時間～4時間未満」が最も高くなっている。男性の正規雇用では「30分～1時間未満」と「1時間～2時間未満」がともに24.0%で最も高く、非正規雇用と非就労者では「ほとんどない」が3割台である。
- 休日は、女性の正規雇用では「5時間以上」が28.4%で最も高くなっている。非正規雇用では「3時間～4時間未満」が22.9%で最も高く「5時間以上」が21.1%と僅差で続いている。
- 男性は正規雇用では「1時間～2時間未満」が24.0%で最も高く、非正規雇用では「ほとんどない」と「1時間～2時間未満」がともに30.8%で最も高くなっている。

#### (4) 希望する暮らし方【問17】

- 男女ともに「仕事と家庭生活をともに優先したい」が最も高く、次いで、「家庭生活を優先したい」であり、その後「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」が続いている。
- 男女ともに、正規雇用、非正規雇用では「仕事と家庭生活をともに優先したい」が最も高く、非就労者では「家庭生活を優先したい」が最も高くなっている。
- 前回調査の結果に比べ、女性では大きな変化はみられない。男性では、「仕事と家庭生活を優先したい」が5.3ポイント低下しており、「地域・個人の生活を優先したい」「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」がそれぞれわずかながら上昇している。

#### (5) 現実の生活【問18】

- 女性では「家庭生活を優先している」が最も高く、次いで「仕事と家庭生活をともに優先している」、「仕事を優先している」の順で続いている。男性では「仕事を優先している」が最も高く、次いで「家庭生活を優先している」、「仕事と家庭生活をともに優先している」の順で続いている。
- 前回調査の結果に比べ、男女ともに大きな変化はみられない。
- 正規雇用では、男女とも、「仕事を優先している」が4割台で最も高く、「仕事と家庭生活をともに優先している」が続いている。非正規雇用では、女性では「仕事と家庭生活をともに優先している」が39.4%で最も高く、男性では「仕事を優先している」が38.5%で最も高い。非就労者では、男女とも、「家庭生活を優先している」が最も高く、女性で62.2%、男性で49.4%となっている。
- 希望と現実を比較すると、男女ともに60歳代以下では「仕事を優先している」割合が希望を大きく上回っており、希望する以上に仕事を優先せざるを得ない状況がうかがえる。また、30～50歳代女性では「家庭生活を優先している」割合が希望を大きく上回っており、希望する以上に家庭を優先している。

#### (6) 今後の就労意向【問14】

- 男女とも、「仕事につきたいと思わない」が女性39.5%、男性62.0%。この結果は今回調査の回答者の年齢分布を反映していると思われる。
- 「ぜひ仕事につきたい」と「できれば仕事につきたい」を合わせた「仕事につきたい」の割合は、女性29.7%、男性21.6%で、女性の方が高くなっている。

### (7) 働いていない理由【問 14-1】

- 男女ともに「健康上の理由で」が最も高く、女性 27.3%、男性 47.1%。女性では「家事や育児をしているから」、男性では「定年退職したから」が続いている。
- 年代別でみると、いずれの層も回答者が少ないため参考値ではあるが、女性は 30～40 歳代は「家事や育児をしているから」、50 歳代や 70 歳代以上で「健康上の理由で」、60 歳代で「定年退職したから」が最も高くなっている。

### (8) 仕事につく上での不安【問 14-2】

- 男女とも「自分の健康状態や体力」が最も高く、「年齢制限に適合するか」が続いている。
- 女性は男性に比べて「賃金や通勤距離など、望む労働条件が得られるか」が 20 ポイント以上、「家事・育児・介護との両立ができるか」「職場の人間関係がうまくいくか」が 10 ポイント以上高くなっている。
- 年代別でみると、いずれの層も回答者が少ないため参考値ではあるが、女性では 30 歳代で「賃金や通勤距離など、望む労働条件が得られるか」、40 歳代で「家事・育児・介護との両立ができるか」、50 歳以上で「自分の健康状態や体力」の割合が最も高くなっている。
- 前回調査の結果に比べ、男女ともに「自分の健康状態や体力」が 5 ポイント以上上昇している。女性では「自分のしたい仕事につけるか」「年齢制限に適合するか」「自分の資格や能力が通用するか」も 5 ポイント以上上昇している。

### (9) 働く上で大切なこと【問 15】

- 男女とも「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができる」が最も高く、女性では「男女が協力して家事や育児・介護などをする」、男性では「社会保障が整っている（厚生年金など）」が続いている。
- 男女を比較すると、女性では「男女が協力して家事や育児・介護などをする」「介護・育児休業がとりやすい職場の雰囲気がある」「働きながら介護ができるようにホームヘルパーや施設などのサービスが充実している」の割合が、男性に比べて 10 ポイント以上高くなっている。
- 女性の 40 歳代以下では「保育所・幼稚園・こども園や学童保育などの保育環境が整っている」「職場に介護・育児休業制度がある」「残業がない、あるいは少ない」が全体に比べて 10 ポイント以上高くなっている。男性の 29 歳以下で「職場での男女間の格差がない（募集・採用や配置・昇進など）」、30 歳代で「社会保障が整っている（厚生年金など）」の割合が全体に比べて 10 ポイント以上高い。40 歳代では「保育所・幼稚園・こども園や学童保育などの保育環境が整っている」、50 歳代で「社会保障が整っている（厚生年金など）」の割合が全体に比べて 10 ポイント以上高くなっている。
- 前回調査の結果に比べ、男性で「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができる」が 11.1 ポイント、「職場に介護・育児休業制度がある」が 5.8 ポイント上昇している。女性では大きな変化はみられない。

## 7 男女の人権について

### (1) 配偶者や交際相手からの暴力に関する相談窓口の認知状況【問 19】

- 男女とも「警察署、交番」がそれぞれ 6 割台で最も高く、「具体的な名称は知らないが、相談窓口があることは知っている」が続いている。
- 「豊中市配偶者暴力相談支援センター」の認知率は女性 11.1%、男性 8.0%となっている。

## (2) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス／DV）に対する認識

### 【問 20】

- 女性はすべての項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっているが、男性では「何を言っても長期間無視される」で「暴力の場合とそうでない場合がある」が「どんな場合でも暴力にあたると思う」を上回っている。
- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高いのは、多少順位に差はあるものの、男女とも「骨折させられたり、鼓膜をやぶられたりする」「命の危険を感じるようなことをされる」「子どもが見ている前であなたに暴力をふるう」「あなたを脅すために子どもに暴力をふるう」といった身体的暴力と子どもを使った暴力に関する項目である。
- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が50%を下回る項目は、女性では「何を言っても長期間無視される」の1項目、男性では「何を言っても長期間無視される」、「大声でどなられる」、「実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがられたり禁止されたりする」の3項目である。
- 女性の「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合はいずれも男性に比べて高いが、「実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがられたり禁止されたりする」は女性の割合が男性に比べて23.9ポイント高く、認識の差が特に大きい。
- 前回調査の結果に比べると全ての項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が上昇している。特に女性では精神的暴力、社会的暴力、経済的暴力、男性では身体的暴力、子どもを使った暴力に関する項目で、10ポイント以上上昇している。

## (3) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス／DV）の経験【問 20】

- 女性の30.9%、男性の22.3%はいずれかの暴力の被害経験がある。
- 被害経験のある暴力の種類では、男女とも精神的暴力（女性26.0%、男性20.1%）が最も高く、身体的暴力（女性10.9%、男性6.8%）が続いている。
- 前回調査の結果に比べると、男女ともに被害経験のある割合が10ポイント程上昇している。暴力の種類をみると、男女ともに精神的暴力が5ポイント以上上昇している。
- 暴力被害経験がある割合は30歳代や50歳代の女性、40歳代男性で3割台である。

## (4) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス／DV）を受けたときの相談状況【問 20-1】

- 女性は、相談先として「家族や親族」が31.6%と最も高く、次いで「友人・知人」が28.6%、男性では、「家族や親族」が23.7%と最も高く、次いで「友人・知人」が13.6%である。
- 「相談しようと思わなかった」は男性で47.5%と、女性に比べて9.9ポイント高くなっている。
- 前回調査の結果に比べると、女性は大きな変化はみられないが、男性では「相談しようと思わなかった」が11.8ポイント低下しており、「家族や親族」「配偶者暴力相談支援センター・DV専門相談機関」が5ポイント以上上昇している。男性では「相談したかったが、しなかった（できなかった）」も6.8ポイント上昇している。

## (5) 配偶者等への暴力（ドメスティック・バイオレンス／DV）に対する認識

### 【問 21】

- 女性はすべての項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっているが、男性では「何を言われても長期間無視する」で「暴力の場合とそうでない場合がある」が最も高くなっている。
- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高いのは、多少順位に差はあるものの、配偶者等か

らの暴力の認識と同様に、男女とも身体的暴力と子どもを使った暴力に関する項目が上位である。

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が50%を下回る項目は、女性では「何を言われても長期間無視する」の1項目、男性では「何を言われても長期間無視する」「大声でどなる」の2項目である。
- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合はほとんどの項目で女性の割合が男性に比べて高く、特に「何を言われても長期間無視する」「大声でどなる」「実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがったり禁止する」では10ポイント以上高くなっている。
- 配偶者等からの暴力の認識と比較すると、女性はすべての項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合に大きな差はみられない。男性は「何を言われても長期間無視する」「交友関係や電話・メール・SNSを監視したり、外出を制限する」「実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがったり禁止する」「十分な生活費を渡さない」「子どもと仲良くするのを嫌う」の項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が配偶者等からの暴力の認識に比べて5ポイント以上高くなっている。

#### (6) 配偶者等への暴力（ドメスティック・バイオレンス/DV）の経験【問21】

- 女性は15.8%、男性は19.7%に経験がある。
- 経験のある暴力の種類では、男女とも精神的暴力（女性14.4%、男性17.8%）が最も高く、身体的暴力（女性3.0%、男性3.8%）が続いている。

#### (7) 相談してよかったと感じたこと【問20-2】

- 女性では、「気持ちが楽になった」が最も高く、「一人ではないと感じられた」が続いている。男性では、「気持ちが楽になった」が最も高く、「自分に何が起きているのかが理解できた」が続いている。
- 前回調査の結果に比べ、「相談してよかったことはない」が女性では7.5ポイント、男性では11.0ポイント上昇している。女性では、「具体的な対応や方法の提示をしてくれた」「自分の強さに気付いたり、強い人間だと思えるようになった」が10ポイント以上、男性では「気持ちが楽になった」「具体的な対応や方法の提示をしてくれた」が20ポイント以上低下している。

#### (8) 相談しなかった理由【問20-3】

- 相談しなかった理由は、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高く、次いで、女性では「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」、男性では「自分にも悪いところがあると思ったから」となっている。
- 男女で比較すると、男性は女性に比べて「自分にも悪いところがあると思ったから」「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が10ポイント以上高くなっている。
- 前回調査の結果に比べ、女性では「自分が受けている行為が暴力とは認識していなかったから」、男性では「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」「他人を巻き込みたくなかったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」の割合が10ポイント以上上昇している。

#### (9) セクシュアル・ハラスメントの認識【問22】

- 男女とも「キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる」（女性87.0%、男性85.6%）が最も高くなっている。その他、女性では「故意に身体にふれられる」「着替え中の更衣室に、異性に入られる」「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」も80%を超えているが、男性では80%を超えているのは「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」のみである。

- 女性では「身体をじろじろ見られる」「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」の割合が男性に比べて10ポイント以上高く、男女間の認識に差がみられる。
- 前回調査の結果に比べ、女性では多くの項目で上昇している。男性では「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」「職場にヌードポスター・ヌードカレンダーなどをはられる」「故意に身体にふれられる」「着替え中の更衣室に、異性に入られる」が5ポイント以上上昇している。

#### (10) セクシュアル・ハラスメントの経験【問 22-1】

- 職場でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験については、女性では、「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」が20.4%で最も高く、「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」「故意に身体にふれられる」が10%を超えている。男性は、「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が9.1%で最も高く、「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」が続いている。
- 学校でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験については、男女とも「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が最も高く、女性で7.0%、男性で5.7%となっている。
- 地域等でのセクシュアル・ハラスメントの経験については、女性で「身体をじろじろ見られる」が5.8%で最も高く、男性で「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が1.9%で最も高くなっている。

#### (11) 男性で「男性はつらい」と感じる理由【問 26】

- 「なにかにつけ『男だから』『男のくせに』と言われる」が19.7%で最も高く、「仕事の責任が大きい、仕事できて当たり前と言われる」「『妻子を養うのは男の責任だ』と言われる」「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」が続いている。
- 47.0%が、『男性はつらい』と感じたことはない』と答えた。年代別にみると30～40歳代では他の年代と比べてつらいと感じる割合が高くなっている。

## 8 LGBTをはじめとする性的少数者について

### (1) LGBTをはじめとする性的少数者の認知状況【問 23】

- 男女とも「言葉も意味も両方知っている」が6割台、次いで「言葉だけは知っている」が2割台となっている。「言葉も知らない」は男女とも10%を下回る。
- 女性では「言葉も意味も両方知っている」は、年代が若いほど高く、30歳代以下で8割台、40～50歳で7割台、60歳代で63.6%と続いている。男性では、「言葉も意味も両方知っている」は40歳代で最も高く87.5%となっている。30歳代と50歳代で7割台、29歳以下と60歳代で6割台と続いている。

### (2) 身体の性・心の性・性指向に悩んだ経験【問 24】

- 身体の性・心の性・性指向に悩んだ経験は、「ある」が女性で3.9%、男性で3.4%である。
- 悩んだ経験がある割合は、女性では29歳以下で11.8%とその他の年代に比べて最も高く、30歳代が10.0%で続いている。男性では40歳代で6.3%とその他の年代に比べて最も高い。

### (3) LGBTをはじめとする性的少数者にとっての社会の生活のしづらさ【問 25】

- 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う』は、女性が 77.9%、男性が 65.1%で、女性の方が 12.8 ポイント高い。
- 女性では 60 歳代以下のすべての年代で「そう思う」が 8 割台である。男性では 80%以上の年代はみられず、30 歳代、50 歳代、60 歳代で 7 割台である。
- 前回調査の結果に比べ、『思う』の割合は女性で 5.7 ポイント、男性で 15.0 ポイント低下している。

### (4) 生活がしづらい社会になっている理由【問 25-1】

- 男女とも、「カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する」が最も高く、次いで女性では「自認する性として利用できる施設・設備が少ない（トイレ・更衣室など）」、男性では「法整備が進んでいない」が続いている。
- 女性では「夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない」が男性に比べて 10 ポイント以上高い。

### (5) 性の多様性理解の促進や支援のために必要だと思うこと【問 25-2】

- 女性では「職場や学校等における理解の促進」が最も高く、「幼少期からの教育の充実」「悩みや情報が共有できる居場所づくり」が続いている。男性では「相談窓口の設置」が最も高く、「職場や学校等における理解の促進」「悩みや情報が共有できる居場所づくり」が続いている。
- 女性では「幼少期からの教育の充実」が男性に比べて 18.0 ポイント、「悩みや情報が共有できる居場所づくり」「職場や学校等における理解の促進」「書類やアンケートにおける性別欄の見直し」が男性に比べて 5 ポイント以上高くなっている。男性では「特に必要なことはない」が女性に比べて 5 ポイント以上高くなっている。

## 9 男女共同参画社会の実現について

### (1) 市が力をいれていくべきこと【問 27】

- 女性では、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が最も高く、次いで、「高齢者の施設や介護サービスを充実させる」「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」「保育の施設・サービスを充実させる」が続いている。
- 男性においても、女性の上位 4 位に挙げた項目が、順位は異なるものの上位を占めている。
- 男女差をみると、ほとんどの項目において女性の割合が上回っており、特に「子育てや介護中であっても仕事が続けられるように支援する」で 20 ポイント以上、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」「高齢者の施設や介護サービスを充実させる」「男性の育児や介護への参加、地域活動などが進むように取組みを充実させる」でも 10 ポイント以上男性に比べて高くなっている。
- 男性では、「市の政策・事業に対して、市民の声を聞く場や制度を充実させる」で 5 ポイント以上高くなっている。
- 前回調査の結果に比べ、女性では「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が 5.7 ポイント上昇している。男性では 5 ポイント以上上昇した項目はみられない。

## (2) 防災対策において、性別に配慮した対応が必要だと思う事【問 28】

- 男女とも「避難所の設備（男女別のトイレ・更衣室・授乳室・洗濯干場など）」が最も高く、次いで「災害時の救援医療体制（乳幼児・高齢者・障害者・妊産婦のサポート体制）」、「避難所運営責任者に男女がともに配置され、運営や被災者対応に両方の視点が入ること」が続いている。
- 男女差をみると、女性では「避難所運営責任者に男女がともに配置され、運営や被災者対応に両方の視点が入ること」が男性に比べて10ポイント以上高くなっている。

## (3) 「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」利用状況【問 29】

- 「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている」を合わせた『認知率』は、女性46.6%、男性25.0%である。そのうち、「利用したことがある」は女性で11.1%、男性で4.5%である。
- 『認知率』は、女性は50～60歳代で5割台、それ以外の年代では4割台と年代で大きな差はみられないが、男性は30歳代で40.7%に対して、その他の年代は1～2割となっている。D
- 前回調査の結果に比べ、『認知率』は、女性では7.5ポイント上昇しているが、男性では4.0ポイントとわずかながら低下している。「利用したことがある」は、男女ともに大きな変化はみられない。

## (4) 「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」にあったら利用したいもの【問 30】

- 女性では「女性の就業支援（再就職に向けてのパソコン講座など）」が最も高く、「相談サービス」が続いている。年代別にみると、女性は50歳代以下で「女性の就業支援（再就職に向けてのパソコン講座など）」、60歳代では「講演会・シンポジウム・フォーラム」が全体に比べて高くなっている。
- 男性では、「相談サービス」が最も高く、「交流の場」が続いている。年代別にみると、男性は29歳以下では「交流の場」「学習活動・NPO・ボランティアの活動支援」、30歳代では「相談サービス」、50歳代では「学習活動・NPO・ボランティアの活動支援」「男性向け講座」などの割合が全体に比べて高くなっている。

## (5) 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の認知状況【問 31】

- 「知っている」が女性で6.5%、男性で6.1%である。

## (6) 「困難な状況から回復するために必要だと思うこと【問 32】

- 男女とも「経済的な自立」が最も高く、次いで「安心してすごせる場所（家・職場・学校以外の場所）」、「困難な状況に気づいてくれる人の存在」となっている。
- いずれの項目も女性の方が高く、そのうち「安心してすごせる場所（家・職場・学校以外の場所）」「経済的な自立」は10ポイント以上女性の割合が高くなっている。